

## 観光パヤオに関する技術交流会

### 1. 目的

糸満漁協与根支部では小型定置網漁業、パヤオ漁等行われているが、近年、パヤオの一部を一般釣り客に開放し、釣り案内等行う観光パヤオに力を入れつつあり那覇近郊から訪れる客も増えつつある。今回は観光パヤオにおいて先駆的な久米島漁協へお邪魔し、観光パヤオを運営する上でその組織や方法はどのようになっているのか視察研修を行った。

### 2. 交流先

久米島漁協

### 3. 日程

9月10日（木）

久米島漁協にてパヤオ部会の観光パヤオ運営について概要説明及び質疑応答

### 4. 参加者

糸満漁協与根支部 安谷屋 光雅氏

金城 高広氏

豊見城村経済部商工水産課 大城 弘氏

水産業改良普及所 近藤 忍氏

### 5. 交流内容

久米島漁協参事及び青年部長棚原氏より久米島漁協における観光パヤオの運営状況について説明を受けた。久米島漁協では、平成元年にパヤオ部会を設立し、パヤオの維持管理を行っている。観光パヤオについては、部会設立2年目にルールをもうけ釣り客に開放した。

観光パヤオの効果としては、パヤオ操業の集中化が回避され魚価の安定化が期待できる。また、島内主産業である観光の振興に寄与でき、島の活性化が図られる等著しい。特に10年目を

迎えるフィッシング大会は全国的に知られ、年々参加者も増加し、質そして規模ともに充実しており観光パヤオ事業の集大成として特筆される。

今回の研修は、与根支部、久米島漁協双方からお互いの観光パヤオ事業について、これまでの活動状況等意見交換の場ともなった。

### 6. 所感

久米島における観光パヤオの対象客は主に本土からの観光客となっており、6月から9月が盛期である一方、与根地区は県内、主に那覇近郊の釣り客を対象とし、ほぼ周年客が訪れる等客層が異なる。また、久米島は離島ではあるが好漁場が近く大物を釣る醍醐味が客に受ける。与根は那覇近郊からの客足は絶えないが、漁場は遠く大漁を期待する客を満足させるのに苦労する等、それぞれ立地条件等一長一短あり興味深い。ただ今後も双方地区の長所を生かした観光パヤオの振興はまだまだ可能性があるだろう。与根支部としてはパヤオ部会の活動をさらに発展させ、久米島のような大規模なフィッシング大会等、糸満地区でも開催したいとのことであった。